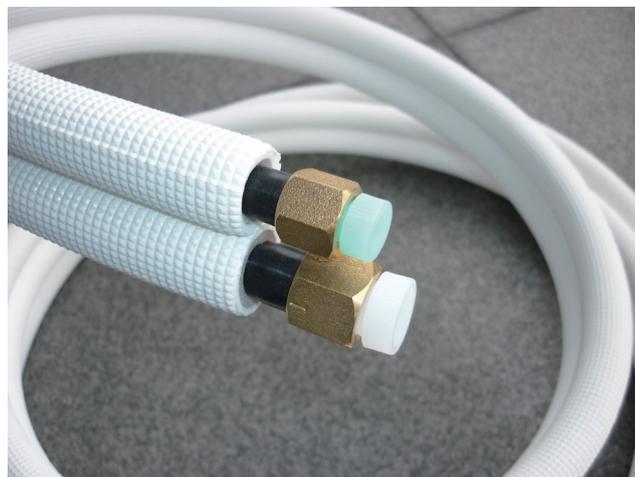


Episode: 「アルミ配管」

桃陽電線が誇る商品「アルミ配管」について、その歴史や開発の背景、今後の展望について実際に開発に携わられた安田清志副社長にお話を伺いました。今号では開発から商品化に至るまでの前編をお届けします。



「銅」から「アルミニウム」へ

エアコンの配管にアルミニウムを使用しています。アルミニウムを使用する以前は、銅の配管が一般的でした。ただ、銅は価格変動が大きいので、コスト面やお客様への安定した供給という点を考慮した結果、配管の材料を変更しようという話になりました。私が参加した東京の展示会で、細い管状のアルミニウムを発見したのがきっかけです。



課題を乗り越え商品化を目指す

アルミニウムと言っても、アルミ合金を使用しているので、強度的には銅と変わらず何も問題はありません。一番の問題は、アルミニウムは銅に比べて腐食が進みやすいことでした。金属は異種金属と接触すると、腐食が進んでしまいます。エアコンの接続口には従来通り銅が使用されていたため、アルミニウムとの接触腐食を防ぐことが課題でした。そこで、新しいデザインのフレアナットを開発しゴムのキャップを取り付けることで解決しました。コストも安く済み、誰でも簡単に取り付けられるため、採用を決めました。



前例のないものへの挑戦

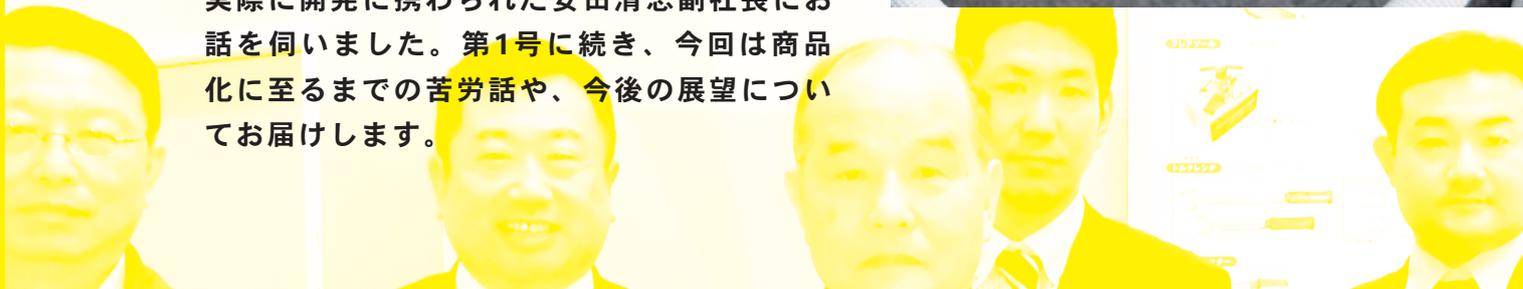
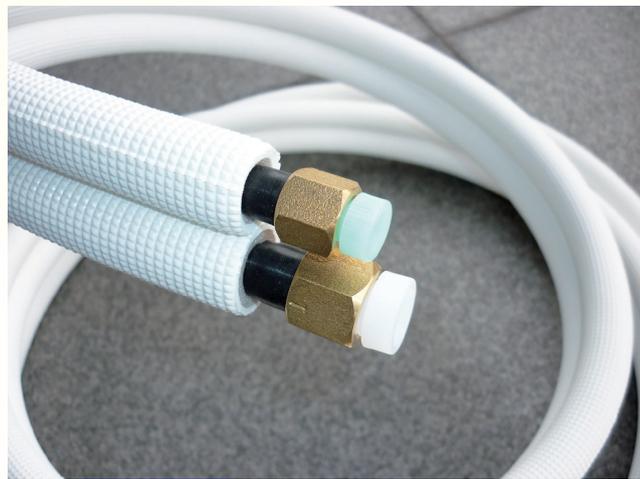
私が展示会でアルミニウムの細い長尺コイル管と出会ったのをきっかけに、業者との交渉が始まりました。生産を開始しても、大手の家電量販店は興味を示してはくれるものの、前例のないアルミ配管への理解を得ることは非常に難しく、苦労しました。ですが、東北大震災が発生した際に、銅管や銅線が不足し、仮設住宅のエアコンにアルミ配管を使用することになったのです。しかし、正しく設置できていなかったのが原因でガス漏れが起きてしま

い、一時期の売上はゼロ近くまで落ち込みました。そこで家電量販店ではなく、末端で小規模の会社をターゲットとして丁寧な商品説明を行い、販売することを心がけました。その後は売上も徐々に伸び始め、アルミ配管はコストも安く済むので、理解をして利用している方々からは好評を得ています。

次回、後編では開発までの苦労や工夫したエピソード、今後の展望について伺います。

Episode: 「アルミ配管」

桃陽電線が誇る商品「アルミ配管」について、その歴史や開発の背景、今後の展望について実際に開発に携わられた安田清志副社長にお話を伺いました。第1号に続き、今回は商品化に至るまでの苦労話や、今後の展望についてお届けします。



開発までの険しい道のり

配管にアルミニウムを使用することは世界で初めてだったので、いかにしてメーカー各社から理解を得て、商品化するかが大きな課題でした。

材料が変わってしまうと新たにコストの問題も発生しますし、理解を得るには非常に時間がかかりました。将来的には銅の一部に取って代わる素材になるという意味を持ち、粘り強く説明を続けた結果、徐々に理解を示してくれる仲間も増えてきました。最近ではアルミ配管の認知度も向上してきて、「アルミ配管を使ってみようか」というお客様も増えてきました。

まだ乗り越えられない「大きな壁」

一方で、まだ乗り越えられない壁もあって、各エアコンメーカーがアルミ配管の使用を認めていないことが一番のハードルになっています。現在、アルミニウム配管工業会が40社ほどで結成され、エアコンメーカーに認知してもらい、許可を貰えるよう努力しているところです。正しく施工すれば安全性は非常に高く、環境面でもアルミニウムは銅よりも優れているので、粘り強く説明を続けて普及に努めたいと思います。



今後の展望

今後も徐々にアルミ配管を世の中に広めていければと思っています。これまでよりも多くのメーカーが参入してくれば、市場の拡大も見込めます。会社としても閉鎖的になるのではなく、技術的にもオープンになることを心がけて、市場に広めていくことが大切だと思っています。

アルミ配管は、強度が高く非常に軽いなどの他、メリットはたくさんあります。エアコンの施工の時も、素材が軽いと非常に助かります。これからアルミ配管を使い続けて行く中で、他にも多くのメリットが見えてくると思うので、今後の展望も楽しみです。

桃陽電線の誇る「アルミ配管」について理解を深められたでしょうか。様々な苦労があって生み出された「アルミ配管」。今後の展望も益々楽しみです。